

105-214

問題文

処方された薬剤のうち、アンチ・ドーピングの観点から、処方変更を医師に提案すべき薬剤はどれか。1つ選べ。

1. フェキソフェナジン塩酸塩錠
2. ベタメタゾン錠
3. フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液
4. フルオロメトロン点眼液
5. エピナスチン塩酸塩点眼液

解答

問214：3問215：2

解説

問214

漢方薬について、アンチ・ドーピングで注意すべき成分は麻黄です。麻黄に含まれるエフェドリンが禁止薬物となります。エフェドリンの構造は選択肢3になります。

以上より、正解は3です。

問215

フェキソフェナジンのような、抗ヒスタミン薬については、アンチ・ドーピングの観点から気にする必要はありません。選択肢1は誤りです。

抗点鼻や点眼については、通常の用法・用量であれば、アンチ・ドーピングの観点から気にする必要はありません。選択肢3～5は誤りです。

以上より、正解は2です。